

感情表現の構文パターンと感情の捉え方に見る言語表現の多様性と共通点

— 日韓中英独語を対象に —

法政大学 王安 東北大学 上原聡

1、はじめに：本発表の背景、目的と構成

本発表では、感情形容詞と感情動詞を中心に用いる日韓中英独5言語（以下では“5言語”と略す）の感情表現の構文を扱う。5言語それぞれの感情表現については、これまでに数多くの研究がなされてきた。中でも日本語の感情形容詞の意味特徴(西尾1972、1975、寺村1982、金水1989、仁田1989、東1992、王安2006、2010、2013、村上2017)や英独の心理動詞述語文の意味構造(Levin1993、武市1994、Iwata1995、最上1989、2006、中村2004、鈴木2005、三宅2008、清野2009、八木1999、2011、Croft1993、2011)には、注目が集まってきた。また、対照研究の観点から日英、日韓、日中など両語間の感情表現における分析も盛んに行われてきた(大江1975、吉川1979、板東美智子・松村宏美2001、谷口2005、池上2006a,b、吉永2008、大槻2014、上原2011、2016、張2001、王安2006、2014、2015、2017)。

本発表では、上述の諸研究を踏まえ、通言語的な視点に立脚し、且つ実証的調査を通じて得た言語事実に基づいて、5言語に用いられる感情表現構文パターンの使用実態及び互いの共通点・相違点を明らかにする。それによって、各言語が感情主や刺激物を参与者に持つ感情事象をどのように言語化するのかを観察し、感情の概念化における言語間の特徴と傾向を、体系的・通言語的に記述することを目的とする。具体的には、まず2節で本発表の調査方法を簡潔に述べる。次に3節では、5言語の構文パターンにおける調査結果に基づき、各言語間の異同について分析する。最後に第4節では、因果連鎖(Croft1993、2011)理論の観点から慣習的な構文パターンに示される感情の概念化における5言語の特徴と傾向を論じる。

2、調査・分析の方法

感情表現の使用実態を見るために、小説作品から実例を収集し分析することにした。具体的には、村上春樹の作品から異なる年代に書かれた4作品：(1982)『羊をめぐる冒険』(『羊』)、(1992)『国境の南、太陽の西』(『国』)、(2004)『アフターダーク』(『ア』)と(2013)『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』(『色』)を対象に、それぞれの作品における5言語の翻訳版から感情表現を含む用例を全て抽出し、「会話文」と「非会話文」に分けてデータベースを構築した。その過程で、各言語の感情表現構文パターンを分類・整理し、さらにそれぞれの言語の専門家や研究者の協力を得て分類の妥当性と構文パターンの適切性を確認した。本発表の分析はこのデータベースの用例に基づいて行われたものである。なお、なるべく自然な会話における感情の語り方の有り様を捉えるため、「会話文」のみを分析の対象とした。

3、調査の結果：5言語の感情表現構文パターンの使用実態、傾向及び相違点

3.1 構文パターンの使用実態と基本的な傾向¹

調査の結果、5言語の感情表現構文パターンは、主に次の8つにまとめられる²。すなわち、I一語文、II形容詞述語文(“形容詞文”)、III動詞述語文(“動詞文”)、IV使役構造、V受身構造、VI連体修飾構造(または名詞修飾節。以下では“連体句”)³、VII連用修飾、VIIIその他(意識、慣用句など)である。「会話文」に見られるこれらの構文パターンの使用実態と傾向は、以下の通りである。

■動詞文、形容詞文：日韓は予測通り、日韓の順で形容詞文が動詞文に比べて多く使用されている。一方、英語は予測に反して、動詞文と形容詞文はほぼ同じ比率、もしくは形容詞文のほうが若干多く用いられてい

¹ 構文の違いとは別に、言語によっては感情を表す一連の語は形容詞で表現されたり、動詞で表現されたり、名詞で表現されたりと、語彙における違いが存在する(Dixon2004)。本発表の考察結果においてもこの指摘に一致する例が観察された。例えば、日本語の形容詞「楽しい」「羨ましい」に対し、英語ではほとんどの場合「enjoy」「envy」などの動詞によって表現されている。また、ドイツ語では「恐ろしい」「怖い」などの感情を表すのは名詞で、「haben+感情名詞」という形で表現されている。韓国語でもドイツ語に類似する現象が観察された。このように、5言語間には感情語彙における品詞の非対応が見られる。なお、本発表は構文の違いにのみ注目し語彙の違いについて現象の指摘に留める。

² ここで用いる構文パターンの各名称は基本的に日本語文法に従っているが、他言語とは必ず一対一で対応していない。例えば、英語の前置修飾や後置修飾・関係節などは名詞を修飾するという意味で本発表では一括して日本語の連体句に対応するものとして扱う。他の構文パターンの扱い方も同様である。また、今回の調査では時制、モダリティなどの影響を検討する余裕がなかった。ドイツ語の場合、3格か4格かという格の違いも考察範囲から外した。

³ 連体修飾構造(連体句)の判定は『日本語文法事典』p 680-684を参照している。

ることが分かった。そして、中独はともに動詞文が形容詞文より多用されているが、中国語に関しては感情動詞が他の類の動詞に比べ感情形容詞的な特徴を帯びており、形容詞と区別しにくい点を考慮すれば、動詞文が多用されるという特徴が明確に捉えられたのは独語のみ、ということになる。

- 使役構造の使用：中独はともに、他の3言語に比べて使役構造を多用する傾向にあり、しかも感情の表出をも表せる点で予想外の類似性が見られた。一方、日韓は予測通り、ほとんど使役文が用いられていない。英語はまた予測に反して、語彙使役・分析使役ともに使用率が低いことが判明した。
- 受身構造の使用：日、英独には見られるが、互いに質の異なるものである(3.2節)。一方、中韓ではそれぞれ1例しか見つからず、感情表現における受動文の使用は殆どないことが分かった。
- 連体句の使用：4作品はいずれにおいても、日本語の感情表現における連体句の使用頻度は他の4言語をはるかに超えている。日本語の連体句の使用率が他言語に比べて高いこと自体はこれまでの対照研究においても指摘されている(堀江・パルデジ 2010、下地 2013、上野 2016)。しかし、感情表現に用いられた連体句の場合、修飾語(生起する感情)と主名詞(感情主または感情が向かう対象・感情を引き起こす原因)の間の関係性によって、他言語では連体句で対応できる場合と対応できない場合とが観察されており、そこにそれぞれの特徴が現れていると考えられる。この点については、次節で詳細に記述する。
- VIIとVIIIについては、用例数が少なくまた紙幅にも余裕がないため、本発表の分析対象からは外す。以上の感情表現構文パターンの基本的傾向からは、各言語表現における感情の世界が浮かび上がってくる。次節では、ある感情事象を言語化するために、各言語がどの構文パターンを選択しているのか、慣習的なパターンがあるのかを、具体例を挙げながら通言語的に観察し、感情の概念化における5言語の特徴と傾向を体系的に捉えていく。

3.2 5言語の構文パターンにおける共通点・相違点

■「一語文」の普遍性

これまでの研究では、日本語は感情形容詞が主語を明示せず一語文の形で感情の表出を表せるのに対し、英語や他の言語の場合は基本的に主語が明示される、とされてきた(中村 2004、濱田 2016: 146)。これに対し本発表の考察により判明したのは、日本語のみならず英独中韓の4言語も感情を表出する際、主語を明示せず一語文の使用が可能である(例(1)~(7))ということである。ただし、言語によっては一語文を構成できる形容詞のタイプに制限がある。例えば、ドイツ語の一語文はほとんどの場合「面白い」「おかしい」などのいわゆる品定めの形容詞(寺村 1982)に限られ、英語は品定めの形容詞のほかに例(6)の感情形容詞による一語文も観察されたが数はやはり少ない。また王安(2006、2015)で既に指摘したように、中国語では、感情形容詞はそのままでは一語文を構成できず、一語文として機能させるために、(4)のように感情形容詞の前に副詞「真」などの表出副詞の付加が必要である。このような言語間における差異はあるものの、感情の表出に関しては感情主や刺激物を言語化しない一語文(一語文的な表現)の使用が通言語的に観察された。感情の表出は刺激物に直面した際に起きる瞬間的吐露であるため、言語化される際には一語文または一語文的表現となって現れる(王安 2006、2015)。この現象は、感情表出の普遍性が各言語に反映された結果であると考えられる。

- | | | | | | |
|--------------|---------------|-----|--------------|-----------------|-----|
| (1) 「おかしいなあ」 | “komisc” | 『羊』 | (4) 「うれしいわ」 | 「真高兴。」 | 『羊』 |
| (2) 「面白いなあ」 | “Interesting” | 『色』 | (5) 「かわいそうに」 | 「가엾어라」 | 『国』 |
| (3) 「面白いなあ」 | “Interessant” | 『色』 | (6) 「うれしいわ」 | “Delighted” | 『国』 |
| | | | (7) 「可哀そうに」 | “How horrible!” | 『羊』 |

■使役構造 (Causative Construction) と感情の概念化

本発表でいう「使役構造」(以下では“CC”)は、一般的にいう語彙使役、使役文のほかに、使役文ではないが使役的意味合いを持つ表現などを含む。日本語の場合、周知のように感情を表す際に使役文がほとんど用いられない。本発表のデータにおいてもわずか2例の語彙使役(“喜ばせる”)しか見られなかった。韓国語もほぼ同数である。一方、英語は予想外にも、使役文の使用がわずか4例、“surprise”や“disappoint”など、先行研究(中村 2004、クロフト 2011、Iwata1995、濱田 2016)でしばしば指摘されてきた語彙使役も、合わせて6例しかなく、いずれも刺激物から感情主に明確な働きかけがある場合、または強調される場合の例である(例(8)(9))。

- (8) “I don’t want to hear anything about her. Don’t make me suffer any more than I already have...” 『国』

「その女の人の話なんて何も聞きたくない。私にこれ以上辛い多いをさせないで…」 『国』

(9) “Have I disappointed you?” 『国』

「僕は君をがっかりさせたかな？」 『国』

日韓英に比べ、中独の感情表現における CC の使用頻度は高い。しかも、両者は異なる言語体系を持つにもかかわらず、ともに感情の表出の場合においても CC が用いられる点が興味深い⁴。

(10) “Das freut mich aber!” (直訳：そのことは私を喜ばせるわ) 『羊』

「うれしいわ」 『羊』

(11) 「能见到你真叫人高兴。」 (直訳：君に会えて(そのことは)本当に人(私)をうれしくさせる)

「君に会えてうれしかったよ。」 『羊』

また予想外にも、ドイツ語のデータでは中国語よりも更に多くの CC の使用が観察された。具体的には、例(10)に示す語彙使役「Freuen～」(～を喜ばせる)のほかに、使役的意味合いを持つ表現「machen+3格(～に)+N」(ある感情をもたらす)、「machen+4格(～を)+Adj」(～くさせる)(例(12)(13))の使用や分離動詞「tun+Adj」(～をする、～を行う)(例(14))を用いる動詞文が挙げられる。これらはパターンこそ異なるものの、感情主・刺激物・生起する感情の三者関係からみた場合、いずれも刺激物を主語に据え、刺激物から感情主への働きかけが強調される点で共通している⁵。つまり、これらの CC は感情が自ずから発生したのではなく、刺激物による外部原因の影響で引き起こされたものであるという、感情生起の外部要因及び因果関係を重視するドイツ語の捉え方と発想の産物であると考えられる。

(12) “Macht Ihnen Pharmazie Spaß?” (直訳：薬学はあなたに楽しみをもたらす) 『国』

日：「薬学を勉強するのは面白いの？」

英：“Pharmacology, huh? Is it interesting?”

(13) “Es macht mich fast neidisch, dir zuzuhören.” (あなた(の話)に耳を傾けて、それが私を嫉妬させる) 『国』

日：「だから私はいまあなたが話したようなことを聞いていると、とても羨ましいのよ。」

英：“...that’s why I envy you...”

(14) “Es tut mir nur weh, Sehr weh.” (直訳：それが私を悲しくさせる、とても悲しい) 『国』

日：「私はただ辛いだけよ、ものすごくつらいだけよ」 英：“I just feel pain. A lot of pain.”

■受動構造(Passive Construction)と感情の概念化

ここでいう「受動構造」は、典型的な受動文と英語の過去分詞形容詞文のような passive な意味合いを持つ表現の両方を含む(以下では“PC”)。日英独に見られた PC の用例について、日本語の場合は「君が遊びにいけば喜ばれると思うな」というような、日本語の特有な視点の置き方を反映する間接受身文であるのに対し、英独語の場合は感情の概念化の特徴を反映するものである。ここでは後者を中心に検討する。

(15) 「シロが誰かに絞殺されると聞いたとき、おれは本当に切なかつたし、心から気の毒に思った。」 『色』

独：“Als ich hörte, dass Shiro erwürgt worden war, war ich zutiefst erschüttert.” (ショックを与えられた)

英：“...I was devastated, and felt really sorry for her. ...”

例(15)のように、一人称の感情は、英独では PC によって表現されている。日本語も英独もともに感情主を主語に据えているのだが、文における意味役割が異なっている。日本語の場合、感情主は単純に経験する人としての役割であり、感情は自ずから生起してくるものとして表現され、感情生起の因果関係には触れない。一方英独語の場合、感情主は受け手、つまり外部原因からの働きかけ・影響によってある感情を引き起こされた人であり、感情生起の因果関係が言語化されている。CC と同様、PC を用いることで感情生起の外部要因が強調されているといえる。両者の違いは、CC が刺激物の前景化により感情生起の因果関係を捉えるのに対し、PC では感情主が受け手であることを前景化することによって、同様の効果を得ている、ということである。<使役>と<受身>は、表裏の関係にあると指摘されている(池上 1981)が、感情表現においては、いずれも感情主を刺激物から影響を受ける・感じる側として言語化する、すなわち感情の生起における感情主の関わりを消極的なものとして概念化する点では、英独語は共通しているといえよう。なお、現代ドイツ語において能動態と受動態には出現頻度に大きな差があり、受動態の割合が極めて低いと指摘されている(鈴

⁴ 中国語の使役構文が感情の表出を表せることは既に王安(2006、2017、2018)で指摘されている。

⁵ tut の語源であるとされている古高ドイツ語の tuon は元來使役的な意味であったと指摘されている(武市 1994:57)。

村 2005 : 76)。こうした事実の下では、感情表現に PC が用いられていることが一層ドイツ語の感情の概念化の特徴を示唆する。データにおいても(例(16))、5 言語のうちドイツ語のみが PC を用いているものもあった。

(16) 「僕は君をがっかりさせたかな？」

独：“Und bist du enttäuscht von mir(by me)?” (直訳：君は私によって失望させられた状態ですか)

英：“Have I disappointed you?”

■再帰文の多用

ドイツ語の感情表現のみに見られる独自の構文パターンが、再帰文の使用である。再帰文が用いられた全ての用例を確認したところ、①原因・理由・意見の説明、②過去の感情の報告・説明、③質問に対する返答、④仮説⑤不特定の人の感情(誰にとってもそうである)など五つの文脈・場面に使われていることが分かった。これらはいずれも「感情の描写」(王安 2006)であり、「うれしい」「X がうれしい」のようなその場における感情の表出を表す場合(王安 2006)には再帰文は使用されていない。このことから、再帰文は「感情の描写」を表す構文であり、感情経験を客観的に記述するものであると理解できる(cf.清野 2009)。

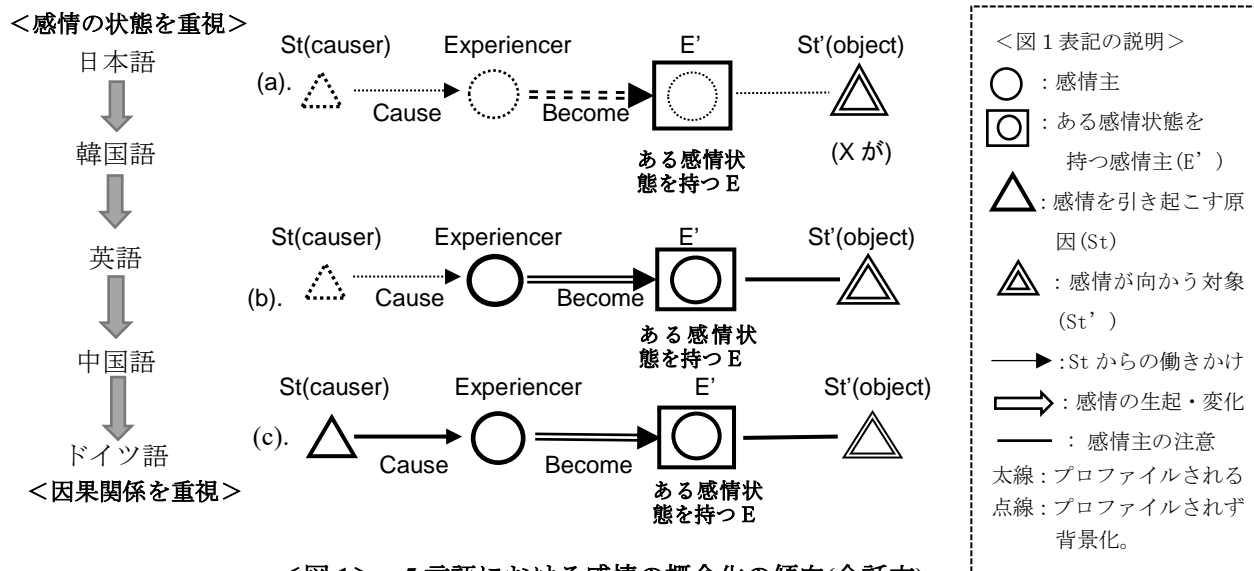
(17) “Die Kinder fürchten sich vor ihr” 『国』 (日：「子供たちは彼女のことを怖がるんだよ。」)

■日本語の連体句に対応する他言語の構文パターン

連体句について、日本語の使用率は韓国語を除き、他の 3 言語の概ね二倍となっていることが観察された。日本語の連体句に対応しない他言語の用例を、修飾語と主名詞との関係に従って分類すると、①感情+感情主、②感情+刺激物(対象)、③感情+刺激物(原因)⁶ の 3 パターンに分けられる。ここではこのうち最も他の言語との違いを示す③の中国語の場合の対応表現を取り上げる⁷。例えば、日本語の連体句「好ましい色」について、中国語でも連体修飾構造が用いられているのだが、修飾節にはそのまま形容詞を使わず、「令人喜欢的颜色(人を喜ばせる色)」のように使役構造を用いなければならない。主名詞「色」は人を楽しくさせる「原因」であるため、中国語では連体修飾構造でも感情生起の因果関係を言語化する必要がある。このことは、中国語は感情生起の因果関係を重視して概念化を行うことを示唆する。

4、まとめと今後の課題

4.1 感情の概念化における 5 言語の傾向と差異(会話文) (図 1 は Croft(1993)、谷口(2005)を参考に修正を加えたもの)



<図 1> 5 言語における感情の概念化の傾向(会話文)

4.2 今後の課題

参考文献(スライドを参照。(参考文献リストを必要とする方は ann.yamaguchi@gmail.com までご連絡ください)

⁶ 刺激物には二つの意味役割があると指摘されている。すなわち、「感情が向かう対象(the object of emotion)と「感情を引き起こす原因(the cause of emotion)の二つである(Iwata1995 : 98-99、山梨 1995、大槻 2014、王安 2018)。

⁷ ①と②についてはこれまでの指摘(「状況中心」V「人間中心」: 国広 1974)や名詞表現を好む言語(金 2003)、クロフト (2011)などにほぼ一致するため、ここでは分析を略すことにする。